

モンゴル野球普及プロジェクト報告書

(日本モンゴル外交関係樹立 45 周年記念事業)



「野球を通じて世界中を笑顔に！」

代表 竹部 貴博

<背景>

2015年12月島根県にある瑞穂ハイランドで、モンゴル人青年ボロー・セルゲレンとウィンタースポーツを通じて出会った。彼とは、日本、モンゴルのスポーツ、経済、文化について語り合ううちに打ち解けていった。その中で、モンゴルでは野球が普及していないことを知った。学生時代、野球に打ち込んで、その楽しさを知る私は、同国で野球を普及させられないかと考えたが、設備や用具に多額の資金が必要なため、同国の経済事情からしたら現実的ではないと感じた。一度は諦めかけたが、彼からの熱心な誘いで、訪蒙を決意し、野球の普及に挑戦したと思い、同国での野球教室の開催を計画した。そこで、彼に計画についての熱い想いを伝えるとともに全面的な協力を求め、2016年に同国で野球教室の開催に漕ぎつけた。

現地の子どもたちは初めての野球に目を輝かせ、大喜びをしてくれた。また来年も来てほしいと言ってくれた。その時の子どもたちの無邪気な笑顔に感動し、野球を通じて笑顔の輪を広げようと2017年3月にプロジェクトとして本格的に活動をスタートさせた。



2016年モンゴル・テレルジ*1

*1 テレルジ：首都ウランバートルの東北部（車で約90分）に位置する地域。国立公園として外国人観光客に人気のスポット。

<目的>

「野球を通じて世界中を笑顔に！」を合言葉に野球の普及・発展及び文化的な交流を目的とした。

<活動内容>

- (1) 野球用具の寄付
- (2) 野球教室の開催
- (3) 野球の指導者育成
- (4) 野球及びその他スポーツを通じた交流
- (5) その他目的の達成に必要な活動

＜訪蒙までのスケジュール＞

○2017 年 3 月

- ・プロジェクトの立上げ並びに資金調達方法の調査
- ・クラウドファンディング（以下 CF）での資金調達決定

○2017 年 4 月

- ・CF 会社 Readyfor に決定 (<https://readyfor.jp/>)

選定理由

- (1) 日本初の CF 会社で最も歴史があり、多くの実績がある
- (2) 海外事業を得意としている
- (3) 専属のキュレーター（アドバイザー）がつく
- (4) 問い合わせた際の対応に好感を持ち、資料がわかりやすかった

Readyfor が他の CF 会社と比較して劣る部分

- (1) CF が成功した際の手数料（報酬）が高い
(支援約束金額の 17%＋消費税)

- ・電話打合わせ（合計で 3 回）

事業内容のヒアリング、両者のマッチング、契約に関する打合せ。

契約、キュレーターの決定。

○2017 年 5 月

- ・キュレーターと電話及びメールでの打合わせ
CF 期間（5/26～7/3）、目標金額の決定（50 万円）、広報に関する打合せ
- ・支援ページ、各種書類の作成
- ・CF 開始 (<https://readyfor.jp/projects/baseballt-project>)
- ・プロジェクトメンバー及び同行者募集開始
- ・航空券購入
- ・協賛企業募集開始

○2017 年 6 月

- ・寄付用具発注先決定
- ・プロジェクト T シャツのデザイナー決定、打合せ
- ・寄付用具、プロジェクト T シャツ、その他用具の発注

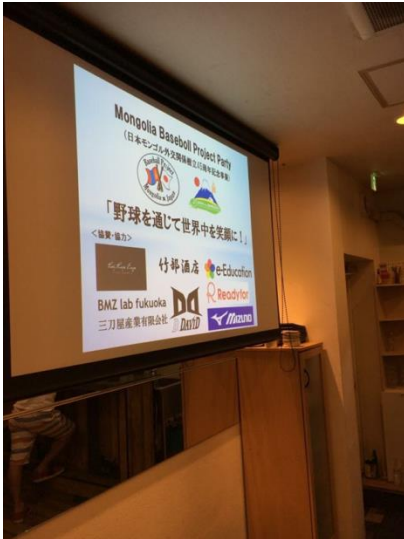
○2017 年 7 月

- ・CF 期間終了、目標額達成（57,2 万円：達成率 114%）
- ・協賛、協力企業確定

○2017 年 8 月

- ・日本モンゴル外交関係樹立 45 周年事業に認定（在モンゴル日本大使館）
- ・出発直前イベント開催（8/19 cafe&bistor alamode：広島市）
- ・訪蒙メンバー確定

- ・訪問先確定
- ・関係機関との渡航への最終打合せ
- ・訪蒙（8/26～9/1）



出発直前イベントには 22 名が参加



出発直前イベント 協賛・協力企業の展示スペース

＜訪蒙メンバー＞五十音順（居住地）

小村海（島根県）、金谷晃大（千葉県）、小関麻由子（広島県）、杉健太郎（山口県）
 ボロー・セルゲレン（島根県）、山崎のり（東京都）、山崎梨央奈（千葉県）
 竹部貴博（広島県）

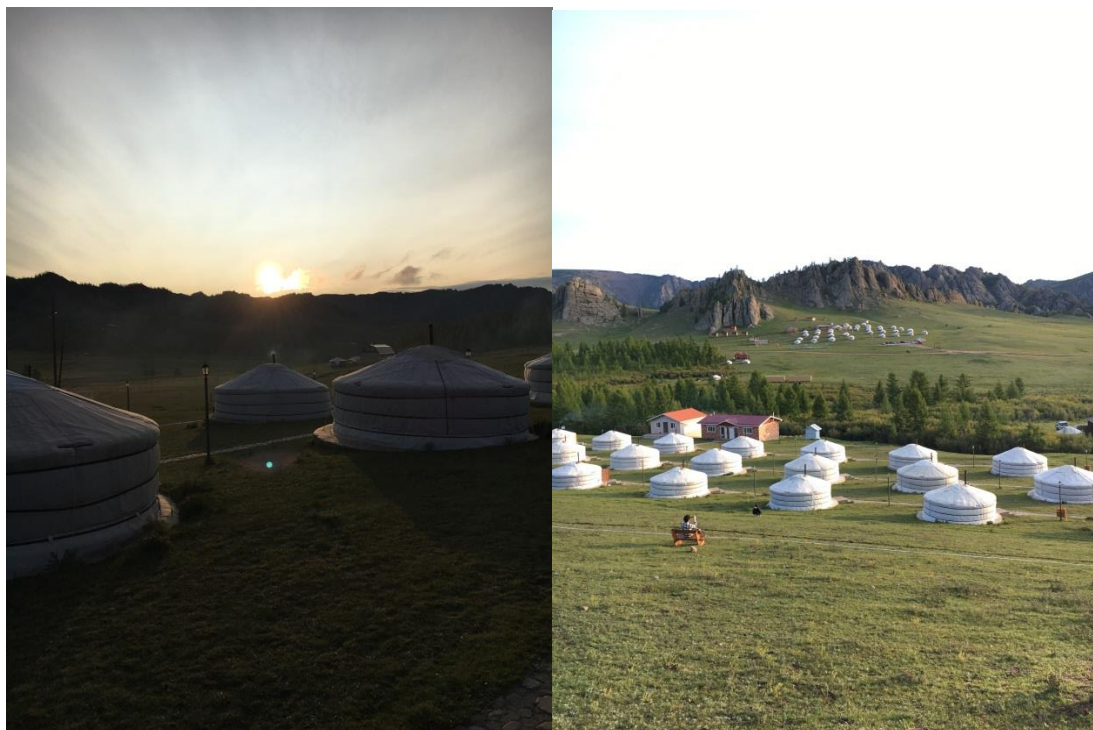
＜現地関係者＞順不同

アリンボルト同国青年野球連盟会長、マグヴァン同国ナショナル野球連盟会長、
バンディ同国ナショナル野球連盟事務局長、ムンクサイハン同国ナショナルチーム監督、
ラグワーソングノハイルイルハン区副区長、アビルメド同区スポーツ体育教育主任、
トヤ同区議会議員、北春日一光元力士（通訳）

＜現地スケジュール＞

○8月26日

広島（9：25 発 IJ622）→成田（14：40 発 OM502）→ウランバートル（19：10 着）
テレルジのツーリストキャンプ*2（ハンテレルジ）に宿泊



ハンテレルジの朝日（ハート型）

*2 ツーリストキャンプ：観光客用ゲルと隣接してレストラン、バー、お土産ショップ、トイレ、シャワー室などの
施設のある別棟が付属した施設

○8月27日

- ・午前 ウランバートルに移動
- ・午後 野球教室（イレデウイ学校：ウランバートル市ソングノハイルイルハン区）
主催：モンゴル青年野球連盟（アリンボルト会長）
対象：初めて野球を体験する8歳～15歳
内容：キャッチボール、ティバッティング



初めての野球に夢中になる子どもたち



日本のそろばん大会で入賞した少年と

教室後、もっと教えて欲しいと来た少年に熱血指導

・夜 ミーティング（DUBLIN：同国初のアイリッシュパブ）

モンゴルで野球が普及しない理由の整理

- (1) 国民の認知度が低く、指導者がいない
- (2) 一般市民が経済的に用具を揃えることが難しい（平均月収約 4 万円）
- (3) 行政は、多額の資金が必要な野球の普及に消極的

野球普及発展のための意見交換の内容

- (1) チームスポーツで得られるコミュニケーション能力、社会性
- (2) 野球が関連する巨大ビジネスマーケット
- (3) 行政に協力を得るための方法について

モンゴル青年野球連盟からの協定打診（この時点では保留）

出席者[アリンボルト同連盟会長、北春日氏（通訳）、小村海、竹部]

ハンテレルジに宿泊

○8月28日

休養日 テレルジで乗馬、観光等



テレルジの草原で乗馬体験、素晴らしい自然を全身で体感

○8月29日

- ・午前 ウランバートルに移動
- ・午後 野球教室（イレーデウイ学校：ウランバートル市ソングノハイルイルハン区）
主催：モンゴル青年野球連盟（アリンボルト会長）
対象：初めて野球を体験する8歳～15歳
内容：野球ボールを使用したキッズエクササイズ、フィールディング
（グラウンドがメンテナンスのため使用不可、急遽学校のエントランスにて）



新品の軟式球に興味深々



限られたスペースでボールの扱いに慣れる球遊び

・夜 ミーティング (Blue Sky Hotel&Tower)

モンゴルで野球が普及しない理由の整理、野球普及発展のための意見交換

同区議会議員への協力要請 (区議会議員承認)、

モンゴル青年野球連盟からの協定打診 (本プロジェクト承諾)

全会一致で区への協力要請を可決

出席者[トヤ同区議会、アリンボルト同連盟会長、北春日氏 (通訳)、杉健太郎、

小関麻由子、竹部]

ハンテレルジに宿泊

○8月30日

休養日 テレルジで乗馬、観光等

○8月31日

・午前 ウランバートルに移動

在モンゴル日本国大使館訪問

(日本モンゴル外交関係樹立 45 周年記念事業の認定書の受取)

・午後 野球教室 (国立野球場@ウランバートル市オリンピックコミュニティ内)

主催：ナショナル野球連盟 (マグヴァン会長)

対象：ナショナルチームに所属する 8 歳～15 歳

内容：実践的なキャッチボール、ロングティバッティング、

フィールディング等の技術指導

オリンピックコミュニティ見学



日本の同年代の選手と比較すると技術的には劣るが、身体能力の高さを随所で発揮



左から監督、杉、会長、竹部、事務局長



日の丸を寄贈



各種目のナショナルチームの事務所が入るオリンピックコミュニティの野球事務所訪問

三者協定締結（ソングノハイルイルハン区、モンゴル青年野球連盟、
本プロジェクト）会場は、ソングノハイルイルハン区役所
・二度の打合せからモンゴルに野球を普及させるメリット（教育的価値、ビジネス
チャンス）を同連盟と本プロジェクトが副区長*3に向けてプレゼンし、副区長か
ら三者協定締結が提案され、全会一致で可決
出席者[ラグワール副区長、アビルメド、トヤ同区議会議、アリンボルト同連盟会長、
北春日氏（通訳）、竹部]

*3 副区長が同区で行う新規プロジェクトの責任者



初めてクラブを手にする副区長



左から北春日氏、副区长、竹部、区議会議員、会長

ウランバートルのフラワーホテル泊

○9月1日

ウランバートル（7：55 発 OM501）-成田（13：40 着）-都内へ移動（都内泊）

○9月2日

羽田（19：15 発 JL267）-広島（20：40 着）

<結果>

(1) 野球教室

のべ70名の子どもたちに指導

(2) 寄贈用具

新品グラブ 20 個

新品バット 5 本

新品ボール 4 ケース

支援者の名前入りの日の丸

その他中古用具（グラブ、バット、ベース、シューズ、ウェア）



寄贈した新品のグラブ（用具協力：ダビッドスポーツ）

寄贈した新品のグラブ、バット（用具協力：ミズノ）

(3) 活動資金

クラウドファンディングでの支援 57,200 円

寄付金 169,261 円

以上、すべて用具の購入、輸送経費、その他諸経費に使用

※総支出 約 750,000 円（2017 年 9 月末現在）

(4) 三者協定締結

(①ソングノハイルイルハン区、②モンゴル青年野球連盟、③本プロジェクト)

三者の役割は以下のとおり

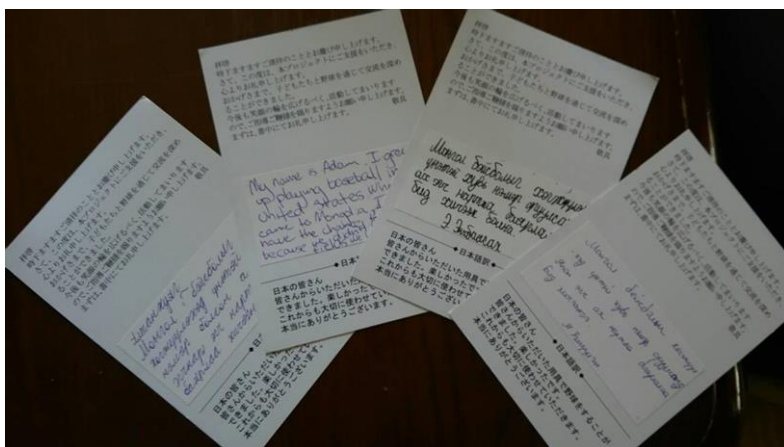
- ① 区内の学校のグラウンド、体育館等の活動場所の提供及び市、国とのパイプ役
- ② 現場マネジメント、用具の管理、野球希望者の勧誘
- ③ 用具の寄付、野球教室の開催、指導者の育成

<クラウドファンディングの返礼品>

子どもたちからのサンクスレター、寄贈する日の丸へ名前を記載、プロジェクトTシャツ



日本の支援者にメッセージを手書きするナショナルチームの選手



支援者に送られたサンクスレター（モンゴルから発送）



Tシャツの左胸にはロゴ（デザイン：赤木祥太）



背中には、協賛・協力企業を記載（製作：BMZ lab fukuoka）

<今後の展望>

- (1) 用具の寄付、野球教室の開催、指導者の育成の支援を継続
- (2) 日本の子どもたちを対象に訪蒙スタディツアー、国際交流試合の実施
（同国の自然、歴史、伝統的な生活を体験しながら交流、スポーツでの交流）
- (3) 両国の若者に対し、留学、就労支援

<写真・エピソード>



ソングノハイルハン区の学校に通う子どもたち対象の野球教室（イレーデウイ学校 8/27・29）



モンゴル青年野球連盟（アリンボルト会長：写真左）から贈られた感謝状

以下、日本語訳

モンゴル野球界の発展ならびに同国の若者たちの成長と明るい未来のために貢献してくださっている日本（広島）の皆様からの温かいお心遣いと物資の支援に対し、モンゴル青年野球連盟から深く感謝申し上げます。

アリンボルト会長

元モンゴル野球代表選手（捕手）。1994年広島アジア大会で来日。その時の思い出を「広島は最高の青春の地だった」と懐かしそうに語る一方、同国での野球の普及は容易ではないと厳しい表情。野球の普及を強く望む会長は、これまで再三にわたって行政に働きかけるものの、その度に批判にさらされた。決して平坦ではない道のりを歩んできたが、今回の出会いとチャンスはもう二度とないという覚悟で、人生をかけて取組もうとしている。

その情熱と意志に本プロジェクトは、同連盟への支援を約束した。

ウランバートル市内でアパレル店経営。

北春日通訳

日本の大相撲の春日山部屋の元力士。以前に竹部が支援したウランバートルに土俵を贈るプロジェクトの関係者で、同プロジェクト代表の杉村氏からの紹介で出会う。北春日氏の友人であるアリンボルト会長への支援を打診され、野球教室の開催が実現。現地では、通訳を務めていただいた。

同国農業組合所属。



ナショナルチームの選手対象の野球教室（国立野球場 8/31）

ナショナルチーム

モンゴル代表として、国際試合に出場している。日本の大会に毎年参加し、徳島県阿南市と親交がある。本拠地である同国唯一の国立野球場は、1996年に徳島県阿南市（旧那賀川町）の支援を受け建設された。現在では、周辺開発が進み、野球の知名度の低さもあって、土地の売却が検討されており、存続の危機にある。グラウンド内は、整備が不十分で、雑草が生い茂り、荒地となり、厳しい状況が伺える。

<メディア関係>（2017年9月末現在）

中国新聞 2017年（平成29年）6月1日 朝刊

e-Education 『トジョウエンジン』

(http://eedu.jp/blog/2017/06/15/mongol_baseball/)

山陰中央新報 2017年（平成29年）6月18日 朝刊

山陰中央新報 2017年（平成29年）9月16日 朝刊

<謝辞>

本プロジェクト立上げのきっかけとなったボロー・セルゲレンには、渡航のトータルサポート、現地関係機関との調整、通訳、現地ガイドを快く引き受けてくれた。また、杉村秀之様、北春日一光様には、モンゴル青年野球連盟と繋がるきっかけをいただいた。さらに現地の子どもたち、関係者には、たくさんの感動と未来への可能性を感じさせてもらった。そして、本プロジェクトを支援していただいた支援者の皆様、協賛・協力企業に深く感謝の意を表す。

< 協賛・協力 >



BMZ lab fukuoka

竹部酒店

三刀屋産業有限会社

